

第16回土佐さがのもどりカツオ祭

「第16回土佐さがのもどりカツオ祭」が10月19日(土)、黒潮一番館周辺で開催され、約1万5千人が来場しました。

同祭は、漁師のおかみさんたちが、1年の豊漁と海上安全に感謝する気持ちから平成16年に始まり、開会式では浜岡直春実行委員長から、「今日は美味しいカツオをたくさん食べて楽しんで。そして、また黒潮町にカツオを食べに来てほしい」とあいさつがありました。

今年は、約2トンのカツオが1本売りや「カツオ御膳」などの薫焼きタタキとして販売され、新鮮なカツオを求めて多くの来場者が長蛇の列をなしました。

香川県から訪れ、カツオ御膳を食べたという夫婦は、「分厚いタタキがたくさん盛られていて豪華だし、とても美味しかった。黒潮町は初めて来たのでお土産もたくさん買った」と話しました。

広場では、佐賀保育所の園児や幡多舞人による踊り、佐賀中学校の生徒が薫焼きの実演を行うなど会場を盛り上げました。

そのほかにも、子どもたちを対象にした「カツオの1本釣りゲーム」



多くの人で賑わう会場



1本釣りゲームを楽しむ子どもたち



幡多舞人によるよさこいの披露

ム」、カツオタタキ丼の食べる速さを競う「旨いもの早食い競争」、抽選会や餅投げが行われ、参加したたくさんの方が笑顔で楽しんでいました。

町内保育所・小学校で起震車体験

9月24日(火)から10月7日(月)まで、町内の園児や児童らが起震車による地震の揺れを体験しました。

起震車とは、地震を疑似体験することができると振動装置を搭載した自動車のことで、高知県では、地震防災対策の啓発や訓練活動の一環として地震の揺れを疑似体験してもらい、日頃の備えを充実させることを目的に起震車の貸し出しを行っています。

9月30日(月)には、三浦小学校の児童らが地震の揺れを体験しました。小学1年生から4年生は体を丸める「ダンゴムシのポーズ」で揺れに耐え頭を守り、5・6年生は震度7の揺れの強さを実感するため、椅子に座り体験しました。体験後、6年生の深木琉生さんは、「起震車は机が固定されていたから机を持って耐えられたけど、家



震度7の揺れを体験する児童ら

や学校の机は固定されていないので、いろいろな工夫をして命を守る行動をした」と話しました。

メキシコの行政官が防災視察

10月7日(月)・8日(火)の2日間、メキシコで防災などを担当する行政官2名と京都大学防災研究所の伊藤善宏准教授が来町し、町の防災の取組などを視察しました。

同視察は、SATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)で、メキシコの研究者と協同で津波災害軽減や防災教育について研究する伊藤准教授のプロジェクトの一環として実施されました。

7日(月)には、行政官らが佐賀中学校を訪問し、全校生徒と津波避難訓練を行いました。

また、8日(火)には、行政官らは大方高校を訪問し、生徒10名がHUG(避難所運営ゲーム)や地域との避難訓練などの防災への取組について発表しました。



生徒と意見交換する行政官ら

で防災に取り組むことの必要性がわかった。課題も多いが、学んだことをメキシコで実践したい」と話しました。